



病害虫情報 9月の予報

情報提供：神奈川県農業技術センター病害虫防除部

令和元年 8月 30日

神奈川県農業共済組合

病害虫情報(第6号)9月予報

令和元年8月30日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463 - 58 - 0333
インターネット <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

【内容】

- I 9月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例 …………… 1
【水稲、カンキツ、ナシ、ブドウ、カキ、チャ、抑制トマト、抑制キュウリ、促成イチゴ、ナス、ネギ、キャベツ、ダイコン】
- II 9月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 …………… 10

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。

※ 農薬に関する情報は、令和元年8月28日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 9月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例

【水 稲】

生育:並(生産技術部:はるみ)

病 害 虫 名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	使用 する 薬 剤 例 ◆ 防除のポイント
ウンカ類 トビイロウンカ	やや多	△	トレボン乳剤 [14日,3回] ウンカ類:1,000~2,000倍 カメムシ類:2,000倍
斑点米カメムシ類	やや多	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [7日,3回] ウンカ類:3,000倍 カメムシ類:2,000倍 等
			<ul style="list-style-type: none"> ◆ トビイロウンカの飛来が確認されたため、水田をよく観察し、株元に大型のウンカが寄生し、下葉が枯れ上がるなどの症状が見られたら直ちに防除する。 また、多数の個体が株に寄生すると、坪枯れとなるため注意する。 ◆ 斑点米カメムシ類による登熟期までの加害が、斑点米被害の原因となる。
縞葉枯病	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 媒介虫であるヒメトビウンカがイネ縞葉枯病ウイルスを保毒する機会を減らすために、収穫後は次の対策を実施する。 ①「ひこばえ」や水田内雑草をすき込む。 ②畦畔や休耕田の除草を徹底する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和元年・第6号・9月)

神奈川県農業技術センター

【カンキツ】 生育:並(足柄地区事務所:普通温州)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒点病	並	○	(予) ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 みかん:[30日,4回] 400~800倍 みかんを除くかんきつ:[90日,4回] 600~800倍 等 ◆ 8月下旬に防除した場合は不要。
かいよう病 (中晩柑類)	並	○	(予) コサイド3000 [生育期,-] 2,000倍 + クレフノン [-,-] 200倍 (予・治) カスミンボルドー 又は カッパーシン水和剤 みかん:[7日,5回] 1,000倍、 みかんを除くかんきつ:[45日,5回] 1,000倍 + クレフノン [-,-] 200倍 等 ◆ 8月下旬に防除した場合は不要。 ◆ 傷口から感染するため、台風通過が予想される場合には予防散布を行う。
カメムシ類	多	△	アルバリン又はスタークル顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 ロディー乳剤[7日,4回] 2,000倍 等
チャノキイロ アザミウマ	やや少	○	キラップフロアブル[21日,2回]1,000~2,000倍 等 ◆ 虫が小さく発見しにくいので、果頂部や果こう部の加害痕に注意。 ◆ 8月下旬に防除した場合は不要。
ミカンハダニ	並	○	ダニエモンフロアブル [7日,1回] 4,000~6,000倍 カネマイトフロアブル [7日,1回] 1,000~1,500倍 等
ミカンサビダニ	並	○	◆ 8月下旬に防除した場合は不要。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【ナシ】 生育:並(生産技術部:豊水)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒星病	並	○	(予) オキシラン水和剤 [3日,9回] 500~600倍 等 ☞ オキシランは混合剤。総使用回数に注意する。 ◆ 秋の降雨により、来年の芽に感染し越冬するので、発病園では必ず9月下旬~10月上旬に防除を行う。
うどんこ病	やや多	○	(予・治) オンリーワンフロアブル [前日,3回]2,000倍 等
カメムシ類	多	△	ダントツ水溶剤 [前日,3回] 2,000~4,000倍 テルスターフロアブル[前日,2回] 3,000~6,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和元年・第6号・9月) 神奈川県農業技術センター

【ブドウ】

病害虫名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
べと病	やや少	○	(予) Zボルドー[-,-] 500~800倍 + クレフノン[-,-] 100倍 等 ◆リ病葉は園外に持ち出し埋める。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【カキ】

病害虫名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
カメムシ類	多	△	モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000~4,000倍 テルスターフロアブル [3日,2回] 3,000~6,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和元年・第6号・9月) …………… 神奈川県農業技術センター

【抑制トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント												
葉かび病	—	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, —] 葉かび病:1,000倍、うどんこ病:1,000～2,000倍 (予) ダコニール1000 [前日, 4回] 1,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日, 3回] 2,000～4,000倍												
すすかび病	—	○													
うどんこ病	—	○													
コナジラミ類 タバココナジラミ	並	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日, 2回] コナジラミ類:2,000～3,000倍 スピノエース顆粒水和剤 [前日, 2回] アザミウマ類:5,000倍 チェス顆粒水和剤 [前日, 3回] コナジラミ類、アブラムシ類:5,000倍 モベントフロアブル [前日, 3回] 2,000倍 ウララDF [前日, 3回] アブラムシ類:2,000～4,000倍□ コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ:2,000倍 エコピタ液剤 [前日, —] コナジラミ類:100～200倍、アブラムシ類:100倍												
アブラムシ類	並	○													
アザミウマ類	—	○													
			◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table> ◆ 施設開口部(出入口、天窗等)には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、害虫の侵入防止に努める。なお、赤色防虫ネット(クロスレッド)はより高い防虫効果が期待できる。 ◆ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。 ◆ 黄色・青色粘着板を設置し、害虫の発生消長を把握する。 ◆ ウイルス病発病株は抜き取り、施設外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分する。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)	アザミウマ類	TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)	アザミウマ類														
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)	アザミウマ類														

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和元年・第6号・9月) …………… 神奈川県農業技術センター

【抑制キュウリ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント								
べと病	—	○	(予) ダコニール1000 [前日,8回] 1,000倍 (予) ジマンダイセン水和剤又はペンコゼブ水和剤 [前日,3回] 褐斑病:600倍、べと病:600~800倍 (予) インプレッションクリア [発病前~発病初期,-] うどんこ病:1,000~2,000倍 (予・治) ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日,7回] うどんこ病、褐斑病:2,000倍								
うどんこ病	—	○									
褐斑病	—	○									
			◆ 多湿状態で施設を閉め切ると病気が蔓延するので、午後は換気に努める。								
アブラムシ類	並	○	ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000~2,000倍 スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] アザミウマ類:5,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] アザミウマ類、アブラムシ類:2,000~4,000倍、 コナジラミ類:2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍								
コナジラミ類	—	○									
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ	並	○									
			◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。								
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(退緑黄化病) BPYV(キュウリ黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	CCYV(退緑黄化病) BPYV(キュウリ黄化病)	コナジラミ類	MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫										
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類										
CCYV(退緑黄化病) BPYV(キュウリ黄化病)	コナジラミ類										
MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類										
			◆ 施設開口部(出入口、天窗等)には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、害虫の侵入防止に努める。なお、赤色防虫ネット(クロスレッド)はより高い防虫効果が期待できる。								
			◆ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。								
			◆ 近年、抑制キュウリで黄化えそ病の発生が増加傾向にあるため、青色粘着板を設置し、アザミウマ類の発生消長を把握すると良い。								
			◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。								

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和元年・第6号・9月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成イチゴ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
炭疽病	やや多	○	【育苗期】 (予) タフパール [育苗期～前日, -] 2,000～4,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [育苗期(定植前), 5回] 1,000倍 (予・治) ファンタジスタ顆粒水和剤 [前日, 3回] 2,000倍 等 ❖ 発病した株の治療効果は期待できないので、発病株とその隣接株は速やかに処分する。 ❖ タフパールは、有効成分が植物体に定着するために、散布後、半日程度湿度を保つ必要があるので、夕方散布するとよい。
うどんこ病	並	○	【育苗期】 (予) タフパール [発病前～発病初期, -] 2,000～4,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [育苗期(定植前), 5回] 1,000倍 【定植後】 (予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, -] 1,000～2,000倍 (予) サンヨール [前日, 6回] 500～1,000倍 (予・治) ショウチノスケフロアブル [前日, 2回] 2,000倍 ☞ ショウチノスケは混合剤。総使用回数に注意する。 等 ❖ 7～8月に発生が見られた場合は、防除を徹底する。 ❖ 高温期には、白い粉状の病斑が見られず、赤紫色の壊死斑となるが病原菌は残存している。 ❖ 本圃に発病株を持ち込まないよう、壊死斑も含めて発病葉をできるかぎり除去し、防除を徹底する。 ❖ タフパールは、有効成分が植物体に定着するために、散布後、半日程度湿度を保つ必要があるので、夕方散布するとよい。
アブラムシ類	並	○	モベントフロアブル[育苗期後半, 1回] 灌注:500倍, 25～50ml/株 モスピラン粒剤 [定植時, 1回] 植穴土壌混和:0.5～1g/株 又は 株元散布:0.5g/株 等 ❖ モベントは天敵(カブリダニ類)に対して45日程度影響がある。
ハスモンヨトウ	並	○	コテツフロアブル [前日, 2回] 2,000倍 アニキ乳剤 [前日, 3回] 2,000倍 等
ハダニ類	やや多	○	モベントフロアブル[育苗期後半, 1回] 灌注:500倍, 50ml/株 コテツフロアブル [前日, 2回] 2,000倍 等 ❖ 本圃に持ち込まないよう防除を徹底する。 ❖ モベントは天敵(カブリダニ類)に対して45日程度影響がある。
コガネムシ類幼虫	—	△	ダイアジノンSLゾル [ポット育苗時, 1回] 育苗ポット灌注:500倍 (1,000L/10a) [定植前(本圃), 1回] 全面土壌混和:25倍 (100L/10a) 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

タフパールとの散布間隔 (メーカー技術資料より抜粋)

▶ サンヨール:3日以上、ベルコート水和剤:10日以上、ファンタジスタ、コテツ:混用事例あり

病害虫情報

(令和元年・第6号・9月)

神奈川県農業技術センター

【ナス】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	並	○	(治) サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300~600倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日, 3回] 2,000倍 (予・治) アミスターオプティフロアブル [前日, 4回] 1,000倍 ☞ アミスターオプティは混合剤。総使用回数に注意する。 等 ◆ 台風通過後は茎葉の傷みや多湿により病害の発生が助長されるため、天候が回復したら速やかに殺菌剤を散布する。
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ	並	○	アフーム乳剤 [前日, 2回] 2,000倍 コテツフロアブル [前日, 4回] 2,000倍 等
ミカンキイロ アザミウマ	並	○	
オオタバコガ	やや少	○	アフーム乳剤 [前日, 2回] 2,000倍 コテツフロアブル [前日, 4回] 2,000倍 トルネードエースDF [前日, 2回] 2,000倍 等
ハダニ類	やや多	○	コテツフロアブル [前日, 4回] 2,000倍 マイトコーネフロアブル [前日, 1回] ハダニ類: 1,000倍
チャノホコリダニ	並	○	サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300~600倍 等

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【ネギ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
さび病	—	○	(予) ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 [14日, 3回] 600倍
黒斑病	—	○	(予) ダコニール1000 [14日, 3回] 1,000倍 (予・治) ベルクート水和剤 [30日, 3回] 2,000倍 等 ◆ 台風通過後は茎葉の傷みや多湿により病害の発生が助長されるため、天候が回復したら速やかに殺菌剤を散布する。 ◆ さび病は、肥料不足や窒素過多にすると発病しやすいので、適切な肥培管理を行う。 ◆ 発生初期から定期的に防除する。 ◆ 薬剤散布の際は、固着性のよい展着剤を必ず加用する。
ネギアザミウマ	やや少	○	ダントツ粒剤 [3日, 4回] 株元散布: ネギアザミウマ: 3~6kg/10a モスピラン顆粒水溶剤 [7日, 3回] アザミウマ類: 2,000倍
シロイチモジヨトウ	やや多	○	アニキ乳剤 [3日, 3回] ネギアザミウマ: 1,000倍 シロイチモジヨトウ: 1,000~2,000倍 カスケード乳剤 [14日, 3回] 4,000倍 等 ◆ 薬剤散布の際は、固着性のよい展着剤を必ず加用する。

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和元年・第6号・9月) …………… 神奈川県農業技術センター

【キャベツ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
べと病	—	○	(予) Zボルドー [—, —] 500倍 (予・治) リドミルゴールドMZ [30日, 3回] 1,000倍 ☞ リドミルゴールドMZは混合剤。総使用回数に注意する。 等 ◆ 台風通過後は茎葉の傷みや多湿により病害の発生が助長されるため、天候が回復したら速やかに殺菌剤を散布する。 ◆ Zボルドーで薬害が懸念される場合は、クレフノン(100～200倍)を加用する。
ハイマダラノメイガ (ダイコン シンクイムシ)	やや多	○	【苗地床灌注】 ジュリボフロアブル [は種時～育苗期後半, 1回:灌注] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ネギアザミウマ :1000倍(苗地床1㎡あたり2L) ☞ ジュリボは混合剤。総使用回数に注意する。
ハスモンヨトウ	並	○	
オオタバコガ	やや少	○	【セル成型育苗トレイ 又は ペーパーポット灌注】 ジュリボフロアブル [育苗期後半～定植当日, 1回:灌注] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ネギアザミウマ:200倍 (セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊あたり0.5L) ☞ ジュリボは混合剤。総使用回数に注意する。 ベリマークSC [育苗期後半～定植当日, 1回:灌注] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、アザミウマ類:400倍 (セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊あたり0.5L) ☞ <u>ベリマークSCはプリロツンと同じ成分のため、定植時までの処理はどちらか1回とする。</u>
ネギアザミウマ	—	○	【育苗期後半又は定植時:粒剤施用】 ダントツ粒剤 ハイマダラノメイガ:[育苗期後半, 1回:株元処理] 0.5g/株 又は、[定植時, 1回:植穴処理土壌混和] 1～2g/株 ネギアザミウマ:[育苗期後半, 1回:株元処理] 0.5g/株 プリロツン粒剤 [育苗期後半～定植時, 1回:株元散布] ハイマダラノメイガ:1g/株、アザミウマ類:2g/株 ☞ <u>プリロツンはベリマークSCと同じ成分のため、定植時までの処理はどちらか1回とする。</u> 【育苗期～定植後:散布】 エスマルクDF [発生初期(但し、前日), —] ハイマダラノメイガ、オオタバコガ:1,000倍 ディアナSC [前日, 2回]2,500～5,000倍 等 ◆ ハスモンヨトウは、鱗毛に覆われた卵塊、孵化直後の集団幼虫を見つけ次第捕殺する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和元年・第6号・9月) …………… 神奈川県農業技術センター

【ダイコン】

病害虫名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
アブラムシ類	並	○	【は種時:粒剤施用】 アクタラ粒剤5 [は種時,1回:作条混和] 4kg/10a 【発芽後:散布】 ダントツ水溶剤[7日,2回]2,000~4,000倍 等 ◆ 生育初期の寄生により、CMV等のモザイクウイルスが媒介されやすいため、生育初期の防除を徹底する。
ハイマダラノメイガ (ダイコン シンクイムシ)	やや多	○	アニキ乳剤[3日,3回]1,000~2,000倍 アクセフロアブル [7日,2回]:1,000~2,000倍 プレバソフフロアブル5 [前日,3回]:2,000倍 等
ネキリムシ類	—	○	カルホス微粒剤F [は種時~生育初期(但し,30日),1回:土壌表面散布土 壌混和处理] 6kg/10a ガードベイトA [は種時~生育初期,4回:株元散布] 3kg/10a 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和元年・第6号・9月)

..... 神奈川県農業技術センター

II 9月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

(1) 9月の気象予報(気象庁 地球環境・海洋部8月23日発表3か月予報)

〈天 気〉

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	20%	30%	50%
降 水 量	30%	30%	40%
日照時間*	40%	30%	30%

*8月22日発表1か月予報による。

(2) 9月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
水稲	いもち病 (穂いもち)	少	並	1) 巡回調査では、葉いもちの発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 巡回調査では、穂いもちの発病は見られず、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年より少ない予報。(±)
	紋枯病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 生育診断ほにおける生育は、草丈、分けつ数、葉色は平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年より少ない予報。(＋)
	トビイロウンカ	少	やや多	1) 巡回調査では寄生は見られず、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寺田縄)および海老名の予察灯で、誘殺が見られた。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
	斑点米カメムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 予察灯における誘殺数は、平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
カンキツ	黒点病	少	並	1) 巡回調査では、果実での発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
	かいよう病 (中晩柑類)	少	並	1) 巡回調査では、果実での発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、果実での発生が平年より多く(＋)、夏秋葉での発生が少ない(－)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(＋)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少

「予報の根拠」..... (＋): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報

(令和元年・第6号・9月)

..... 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	チャノキイロアザミウマ	少	やや少	1) 巡回調査では寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)の粘着トラップでは、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(±)
	ミカンハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年より多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(±)
	ミカンサビダニ	少	並	1) 巡回調査では、被害は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(±)
ナシ	黒星病	少	並	1) 巡回調査では、徒長枝での発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 巡回調査では、短果枝での発生が9年平均より少ない(－) 3) 県予察ほ(上吉沢)では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
	うどんこ病	少	やや多	1) 巡回調査では、徒長枝での発生が6年平均より多く、短果枝での発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(±)
ブドウ	べと病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
カキ	うどんこ病	少	やや少	1) 7月の巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(±)
果樹全般	カメムシ類	少	多	1) ナシの巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、県予察ほ(根府川)、南足柄で平年より多く(＋)、伊勢原で平年並(±)。 3) 予察灯へのチャバネアオカメムシの誘殺数は、県予察ほ(上吉沢、根府川)、伊勢原で多く(＋)、山北では少ない(－)。 4) ヒノキ球果上のカメムシ寄生数は平年より多い。(＋) 5) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(＋)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」..... (＋): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報

(令和元年・第6号・9月)

..... 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
チャ	炭疽病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発病は見られず、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
	もち病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発病は見られず、発生は平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(±)
	チャノキイロアザミウマ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年並。(±) 3) 叩き出し調査では、落下虫数が平年より少ない。(－) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
	チャノミドリヒメヨコバイ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年並。(±) 3) 叩き出し調査では、落下虫数が平年並。(±) 4) 予察灯(山北)の誘殺数は、平年より多い。(＋) 5) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
	ハマキムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年並。(±) 3) 予察灯(山北)の誘殺数は、チャハマキは平年より少なく(－)、チャノコカクモンハマキは平年より多い(＋)。 4) フェロモントラップの誘殺数は、チャハマキでは山北は平年より少なく(－)、県予察ほ(寸沢嵐)は平年より多く(＋)、チャノコカクモンハマキでは山北、県予察ほ(寸沢嵐)ともに平年より少ない(－)。 5) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
	チャノホソガ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 3) 予察灯(山北)の誘殺数は、平年より少ない。(－) 4) フェロモントラップの誘殺数は、山北、県予察ほ(寸沢嵐)ともに平年より少ない。(－) 5) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
	カンザワハダニ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、寄生は見られず、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(＋)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」..... (＋): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報

(令和元年・第6号・9月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
抑制トマト	タバココナジラミ	—	並	1) ナス巡回調査では、発生が平年より少ない。(—) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(+)
抑制キュウリ	ミナミキイロアザミウマ	少	並	1) ナスの巡回調査では寄生は見られず、発生が平年より少ない。(—) 2) 青色粘着板調査では、捕獲虫数が大磯町で過去5年平均よりやや少なく(—)、平塚市で平年並(±)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(+)
促成イチゴ	炭疽病	少	やや多	1) 巡回調査では、育苗期の発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(+)
	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、育苗期の発生が過去9年平均並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(±)
	ハダニ類	少	やや多	1) 巡回調査では、育苗期の発生が過去8年平均並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(+)
ナス	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(±)
	ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	少 少	並 並	1) 巡回調査では、ミナミキイロアザミウマの寄生は見られず、発生が平年より少なく(—)、ミカンキイロアザミウマの発生が平年並(±)。 2) 青色粘着板調査では、捕獲虫数がミナミキイロアザミウマでは大磯町で過去5年平均よりやや少なく(—)、平塚市で平年並(±)、ミカンキイロアザミウマでは大磯町で過去5年平均よりやや少なく(—)、平塚市で平年よりやや少ない(—)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(+)
	ハダニ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(+)
	チャノホコリダニ	少	並	1) 巡回調査では、被害は見られず、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(+)
ネギ	ネギアザミウマ	中	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(—) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(+)
	シロイチモジヨトウ	—	やや多	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、伊勢原で平年より多く(+)、横浜で平年並(±)。 2) 県予察ほ(上吉沢)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや多い。(+) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(+)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (+): 多発要因 (—): 少発要因

病害虫情報

(令和元年・第6号・9月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
アブラナ科 野菜	コナガ	－	やや多	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、横浜、伊勢原ともに平年並。(±) 2) 県予察ほフェロモントラップへの誘殺数は、上吉沢では平年並(±)、三浦では平年より少ない(－)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
	ハイマダラノメイガ	－	やや多	1) 秋冬キャベツの巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)の誘致花(クレオメ)へのハイマダラノメイガの寄生は、平年より多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
野菜全般	アブラムシ類	－	並	1) ナスの巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほの黄色水盤への誘殺数は、上吉沢、三浦ともに平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
	ハスモンヨトウ	－	並	1) ナスの巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦では平年よりやや少なく(－)、横浜では平年より少なく(－)、伊勢原では平年並(±)。 3) 県予察ほフェロモントラップへの誘殺数は、上吉沢では平年並(±)、三浦では平年よりやや少ない(－)。 4) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
	オオタバコガ	－	やや少	1) ナスの巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、横浜、伊勢原ともに平年より少ない。(－) 3) 県予察ほフェロモントラップへの誘殺数は、上吉沢、三浦ともに平年並。(±) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋): 多発要因 (－): 少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

★カンキツ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー、ファンタジスタ)
 - ▶ QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
 - 単剤あるいはSDHI剤との混合剤(ナリア)の場合:1年1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

★ナ シ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
 - ▶ QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
 - 単剤あるいはSDHI剤他との混用の場合:1年2回
 - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
 - 単剤あるいはQoI剤他との混用の場合:1年2回

★ブドウ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(フリント、アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1年1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤(ホライズン)の場合:1年2回
 - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1年1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤の場合:1年2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(レーバスフロアブル)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(フェスティバルM水和剤等)の場合:1作2回

★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス、ネクスター、パレード20)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(トリフミン)の場合:1作2回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(テーク、パンチョ)の場合:1作3回

★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ファンバル、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

★ナス★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

★イチゴ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(スコア、トリフミン、ラリー)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回